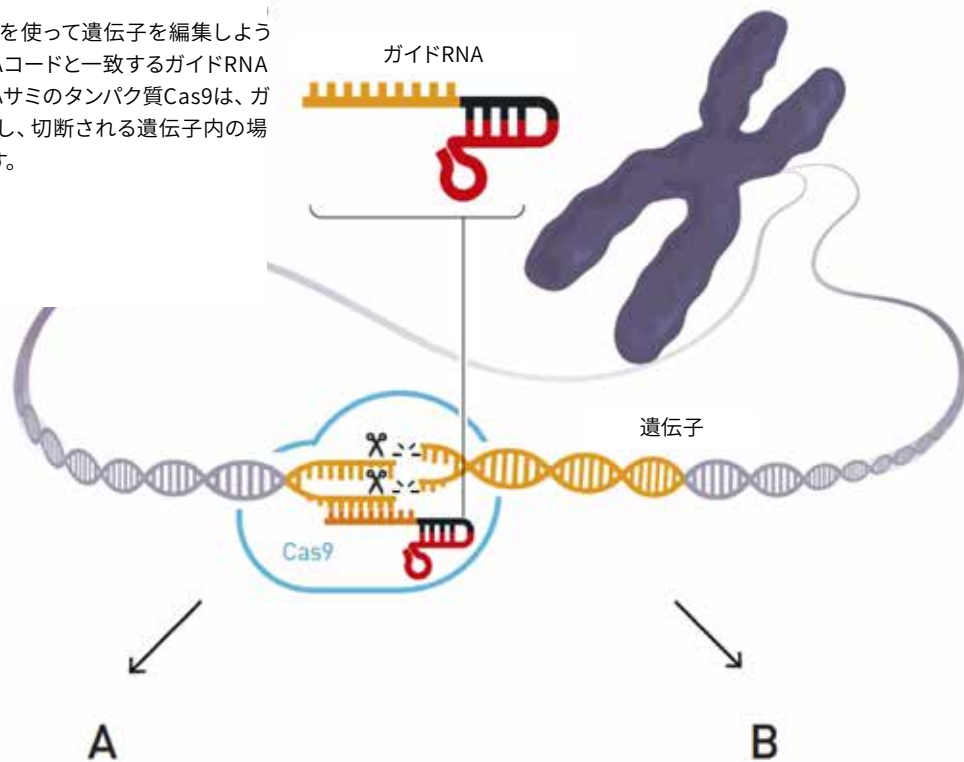
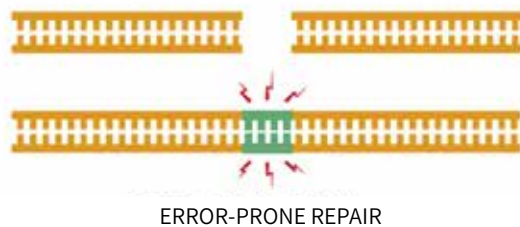


CRISPR / Cas9遺伝子のハサミ

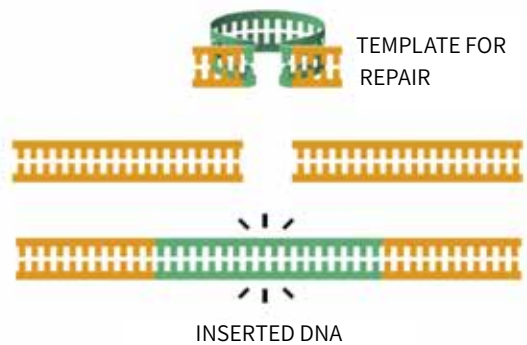
研究者が遺伝子のハサミを使って遺伝子を編集しようとすると、切断されるDNAコードと一致するガイドRNAを人工的に構築します。ハサミのタンパク質Cas9は、ガイドRNAと複合体を形成し、切断される遺伝子内の場所にハサミを移動させます。



研究者は、細胞自体がDNAの切断を修復できるようにすることができます。ほとんどの場合、これにより遺伝子の機能がオフになります。



研究者が遺伝子を挿入、修復、または編集したい場合は、そのための小さなDNAテンプレートを特別に設計できます。細胞は遺伝子の切断を修復するときにテンプレートを使用するため、遺伝子コードが変更されます。



産の層があります。私たちが価値のある製品を作り出したときに、それが将来どのように機能するかを見るのが楽しみです。」と述べています。標準化団体MPEGLAは、関連する特許技術へのアクセスを促進するために、CRISPR-Cas9共同ライセンスプラットフォーム（またはパテントプール）の構築を提案しています。

後に続く特許紛争

シャルパンティエ教授とダウドナ教授は2013年に米国で最初の出願を行い、PCT出願 (WO/2013/176772

として公開) を通じて他の多くの国にも移行されました。2015年以降、カリフォルニア大学バークレー校およびウィーン大学 (特許出願人) は、米国ブロード研究所との間で、出願の有効性を判断するための米国特許商標庁 (USPTO) での特許インターフェアレンスをめぐる争いに拘束されています。同じ当事者間の紛争は他の法管轄でも発生していますが、それらはまだ解決していません。Sherkow教授が述べているように、さらなる法廷紛争が起こる可能性もあります。「大きな問題の1つは、なぜこれらの紛争が解決されていないのか、そして誰が解決することに対して消極的なのかということです。